

## 年間第二十九主日

2010.10.17 高円寺教会初ミサ

ルカ 18：1～8 「やもめと裁判官」

今日は、祈りについて、イエスはたとえを通して大切なことを教えていきます。そこで、福音のテキストから多少離れるかもしれません、祈りについて大切な点を、私なりの体験をお話しします。

イエスは、祈りの重要な点として“気を落とさないこと”を挙げています。それでは、逆に“気を落とす”とどうなるでしょうか？ ついついネガティブに考えてしまいいます。自分には才能がない、つてがない、お金もない、だから無理だ。もうよそう、とあきらめる方向に傾きます。前に進むエネルギーがそがれていきます。神様の前で祈っているつもりでも、実は思い悩んでいます。私たちはどうしても、思い煩いのために時間を使ってしまいます。自分自身で、思い悩んでいるなと感じたら、心を切り替えましょう。

具体的に、どのように切り替えるかというと、才能がないとか、つてがない、という足りない部分を主に願うのです。今日も明日も、繰り返し、繰り返し…。それこそしつこく願い求めましょう。そのしつこさは、行動に表れます。やもめは何度も裁判官のところに押しかけています。私たちも、必死さを表に出しましょう。必死さは、体でも表現できます。たとえば、適度な断食が挙げられます。ダイエットは、似ていますが美容と健康のためです。断食は、心と体が一体になった祈りです。断食以外には、やりたいことを我慢するなど何かの犠牲を捧げる方法で、祈りに切実さを加えることができます。

必死さは自分のうちだけに留めておく必要はありません。人にお願いすることが大切です。けれども、とかく遠慮をしがちです。ひとに迷惑をかけたくないからと、自分で処理しようとしがちです。けれども、結局苦しくなってさらに人に打ち明けにくくてしまいます。一人でため込まずにどなたかに訴えてみましょう。そこから、何か展開が変わることがよくあります。人から願いごとを頼まれたら、熱心にとりなしの祈りを捧げましょう。ミサの前に、ロザリオの祈りをしましたが、ロザリオの祈りはとりなしの祈りとしてとても親しみやすい祈りです。願いごとを頼まれたら、聖母マリアにとりなしの祈りを捧げましょう。

私自身の歩みを振り返ると、高円寺教会に来るようになったのは、難しい神学の勉強に疲れて、これでいいのかと悶々としていた時期でした。自分の召出しに原点に戻るために「サラリーマンの救いのために」講座をもちたいと前の主任神父さんに直接交渉しました。必死さが伝わったのか幸い、快く引き受けて下さいました。けれども、意気込みはあっても、なかなかニーズに答えられませんでした。何をしたらいいのかよくわからなくなりました。段々と参加者が減り、少ないとときには、参加者はお一人だ

けでした。そうなると、気を落とします。失敗だったのではないか、ヘルパーの方のお手を煩わして申し訳ないので、もうやめてしまった方がいいのではないか、と思つたこともありました。けれども、何人来られるかは別として、できるだけの準備をするように考え方を切り替えました。そうこうするうちに、参加者が増えるようになり、祈り合える集いになり充実してきました。準備していても楽しくなってきました。けれども、また新たな壁にぶつかりました。昨年の6月頃に「司祭叙階願い」をイエズス会の管区長あてに出す頃に、わたしはまた自信をなくしていました。私は、社会人の経験が長いためか、考え方も違うし、将来イエズス会員として続けられるのだろうか?という不安がもたげていました。そんな頃、小聖堂でのロザリオの祈りの後、ある方からこのような声をかけていただきました。「柴田さんは、もう神様から選ばれているので何も心配いりませんよ」と・・。私は、祈るのではなく思い悩んでいました。助祭に叙階されてからも、家族のことで随分の祈りと心遣いいただけました。このような祈りに満ちた思いやりのある教会は、そういうものではないと思います。本当に感謝の気持ちで一杯です。

私のように司祭を志す人は、特に恵まれていると思います。それは、何を望んでいるか誰からでもわかるという点にもあります。神学生にお見合いの話は誰ももちかけません。「いい神父さんになれるようにお祈りしています」と声をかけられたらこれ以上何も申し上げることはありません。けれども、信徒の方となると何を望んでいるのか、傍からでは分かりません。何で困っているのか、どうしたいのか、伺い知ることができます。そこが大きな課題です。だから、遠慮せずに声をかけましょう。やもめのように叫び声をあげましょう。何人かで祈ると力が加わります。私のところにも、祈りの依頼にいらしてください。

私は、初ミサを昨日と今日捧げたら、司祭を必要としている別の教会のお手伝いに派遣される予定でした。けれども、急に林神父さんが移動されることになり状況が変わりました。吉池神父さんから人を通して「来年の3月ごろまで続いてお手伝いできませんか?」と打診がありました。このことも一つの摂理かもしれません。もちろん林神父さんのように司牧することもできないでしょうけれど、ひょっとしたら、一人で黙って悩んでいる方のために何かできるかもしれません。ご一緒に、気を落とさずに祈ることができるかもしれません。

延長された、高円寺教会でのこの数ヶ月を皆さんと共にあきらめずにしつこく祈つていけたらと願っています。

イエズス会司祭 柴田 潔